

## マーケットの動き（2026年4月13日～4月17日）

先週の国内債券市場は、前週末比で金利はほぼ横ばいでした。週初は、米国とイランが戦闘終結に向けた協議で合意に至らず、米国がホルムズ海峡封鎖を主張したことなどから原油供給懸念が高まり、金利は上昇しました。その後、14日の20年物国債入札が想定より強い結果となったことや、中東情勢の不透明感を背景に日銀の利上げは難しいとの見方が強まり、債券は買われました。クレジット市場は、ハイブリッド債を中心に堅調さがみられました。

## 投資環境見通し（2026年4月）

## 国内長期金利の低下余地は限定的

日銀総裁は、3月の金融政策決定会合での利上げ見送りに際し、中東情勢の緊迫化によって景気に下押し圧力がかったとしても一時的なものにとどまり、基調的物価に影響しなければ利上げは可能との見解を示しました。原油価格高騰の景気に対する影響は懸念されますが、インフレ懸念から早ければ4月にも利上げが行われるとの見方もあり、国内長期金利の低下余地は限定的で、引き続き上昇圧力がかかりやすいとみています。

	4月17日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	2.41	▲0.01	0.14	0.79	1.10
NOMURA-BPI総合 （騰落率）	330.29	0.22%	▲0.80%	▲3.93%	▲5.91%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

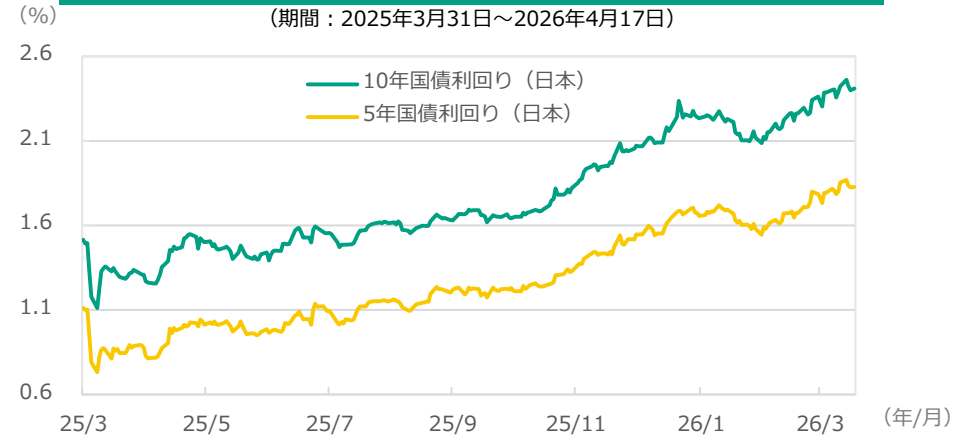
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/202604\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202604_outlook.pdf)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

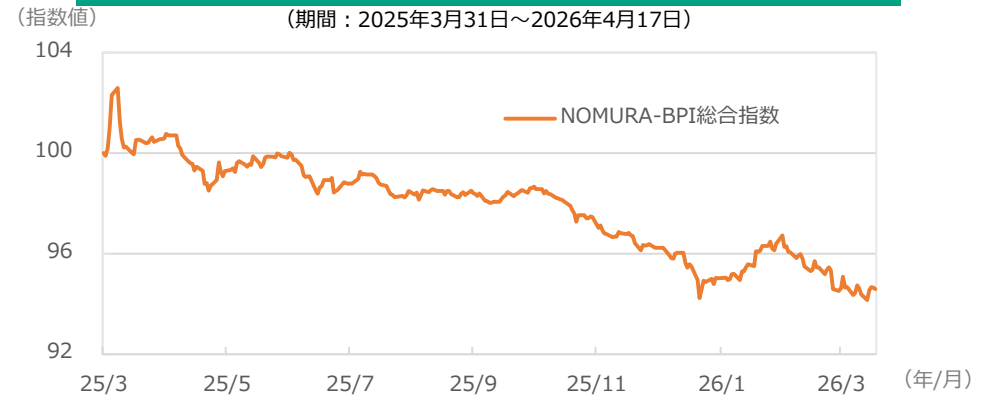
## 日本国債利回りの推移

（期間：2025年3月31日～2026年4月17日）



## NOMURA-BPI総合指数の推移

（期間：2025年3月31日～2026年4月17日）



※2025年3月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成